

8月6日(木)～7日(金)

「第17回中国・四国・九州地区理数科高等学校課題研究発表大会」

本年度の理数科課題研究発表大会は、長崎県諫早市諫早文化会館で行われました。鳥取県から沖縄県までの各県の代表校により口頭発表16校、ポスターセッション59校により2日間にわたり発表大会が行われました。

益田高校からは「ドンコの視覚と体色変化」と題して、3年5組の齋藤真くと玉田千里さんがポスターセッションの部門で発表しました。2日間での発表時間の合計は約4時間です。1日目は参加校の生徒による相互聴講でした。2日目は地元の高校からの聴講があり、常に3名～8名の聴講者に囲まれ、発表時間内に来場者が途絶えることがありませんでした。発表では、補助資料としてタブレットも駆使され、発表技術は見事でした。2日間の発表会を通じて、他県の生徒さんや引率の先生、大学の先生方も来ておられ、質問を通じて研究を進めるうえでの着眼点や検証方法など貴重なアドバイスいただき、この上ない勉強になりました。

閉会式では、審査委員長の九州大学呉屋先生より、常に日常的な事象に対して問題意識を持って課題研究に取り組んでほしい。分析の方法や検証方法の精度を高める工夫をしてほしい。そして、大学には入ってからこの経験を生かしてほしい、という指導を頂きました。

